

Ⅱ 調査結果の概要

1 発育状態

(1) 身長・体重の全国平均値との比較

千葉県平均値と全国平均値の比較をみると、

① 身長

男子は、5～12及び14～17歳で上回り、13歳では下回っている。

女子は、5～13及び15～17歳で上回り、14歳では同値である。(表1)

なお、身長の千葉県平均値の推移は、図1のとおりである。

② 体重

男子は、5～8及び15歳で上回り、9歳及び16歳では同値、他の年齢では下回っている。

女子は、5～9、11、15及び16歳で上回り、10歳では同値、他の年齢では下回っている。(表1)

なお、体重の千葉県平均値の推移は、図2のとおりである。

表1 身長・体重の全国平均値との比較

区分		身長(cm)			体重(kg)			
		千葉県①	全国②	差①-②	千葉県③	全国④	差③-④	
男	幼稚園	5歳	111.4	111.0	0.4	19.4	19.2	0.2
		小学校	6	117.6	116.9	0.7	21.9	21.6
	7		123.4	123.0	0.4	24.7	24.5	0.2
	8		129.3	128.6	0.7	28.1	27.8	0.3
	9		134.6	134.1	0.5	31.4	31.4	0.0
	10		139.8	139.6	0.2	35.1	35.3	△ 0.2
	11		146.6	146.2	0.4	39.8	39.9	△ 0.1
	中学校	12	154.4	154.2	0.2	45.5	45.8	△ 0.3
		13	161.0	161.1	△ 0.1	50.0	50.6	△ 0.6
		14	166.4	166.0	0.4	54.7	54.9	△ 0.2
	高等学校	15	169.0	168.6	0.4	59.6	59.0	0.6
		16	170.4	169.9	0.5	60.4	60.4	0.0
		17	170.8	170.7	0.1	61.5	62.0	△ 0.5
	女	幼稚園	5歳	110.9	110.2	0.7	19.2	18.9
小学校			6	116.6	116.0	0.6	21.6	21.2
		7	122.6	122.1	0.5	24.4	24.0	0.4
		8	128.2	127.8	0.4	27.2	27.0	0.2
		9	135.1	134.4	0.7	31.6	31.0	0.6
		10	142.0	141.4	0.6	35.3	35.3	0.0
		11	148.3	147.9	0.4	40.4	40.2	0.2
中学校		12	152.6	152.3	0.3	44.2	44.5	△ 0.3
		13	155.2	155.0	0.2	47.4	47.6	△ 0.2
		14	156.4	156.4	0.0	49.4	49.8	△ 0.4
高等学校		15	157.9	157.2	0.7	51.8	51.2	0.6
		16	158.2	157.8	0.4	52.8	52.2	0.6
		17	158.1	158.0	0.1	52.0	52.6	△ 0.6

図1 身長の推移（千葉県）

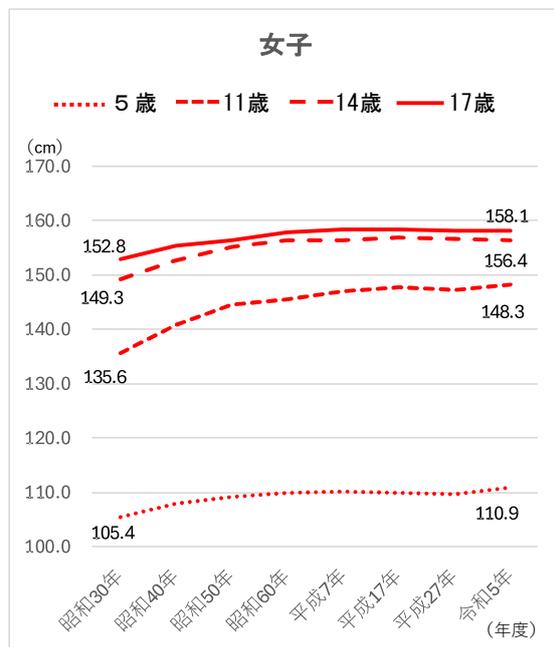
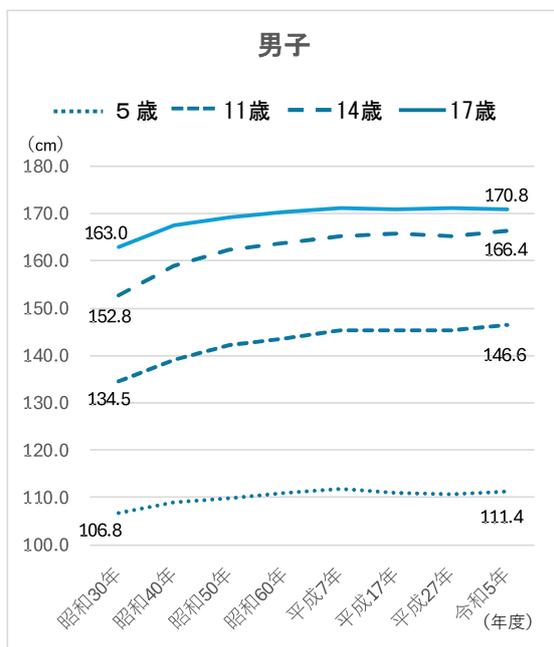
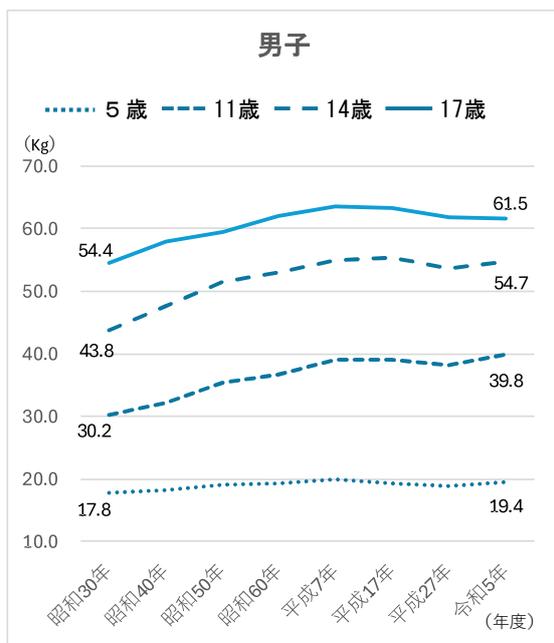


図2 体重の推移（千葉県）



(2) 身長・体重の年齢較差・男女差

① 身長

年齢較差を見ると、男子では、11歳と12歳の差が7.8cm、女子では、8歳と9歳及び9歳と10歳の差が6.9cmと最大となっている。

また、男女差を見ると、9～11歳では、女子が男子を上回っている。(表2、図3)

② 体重

年齢較差を見ると、男子では、11歳と12歳の差が5.7kg、女子では、10歳と11歳の差が5.1kgと最大となっている。

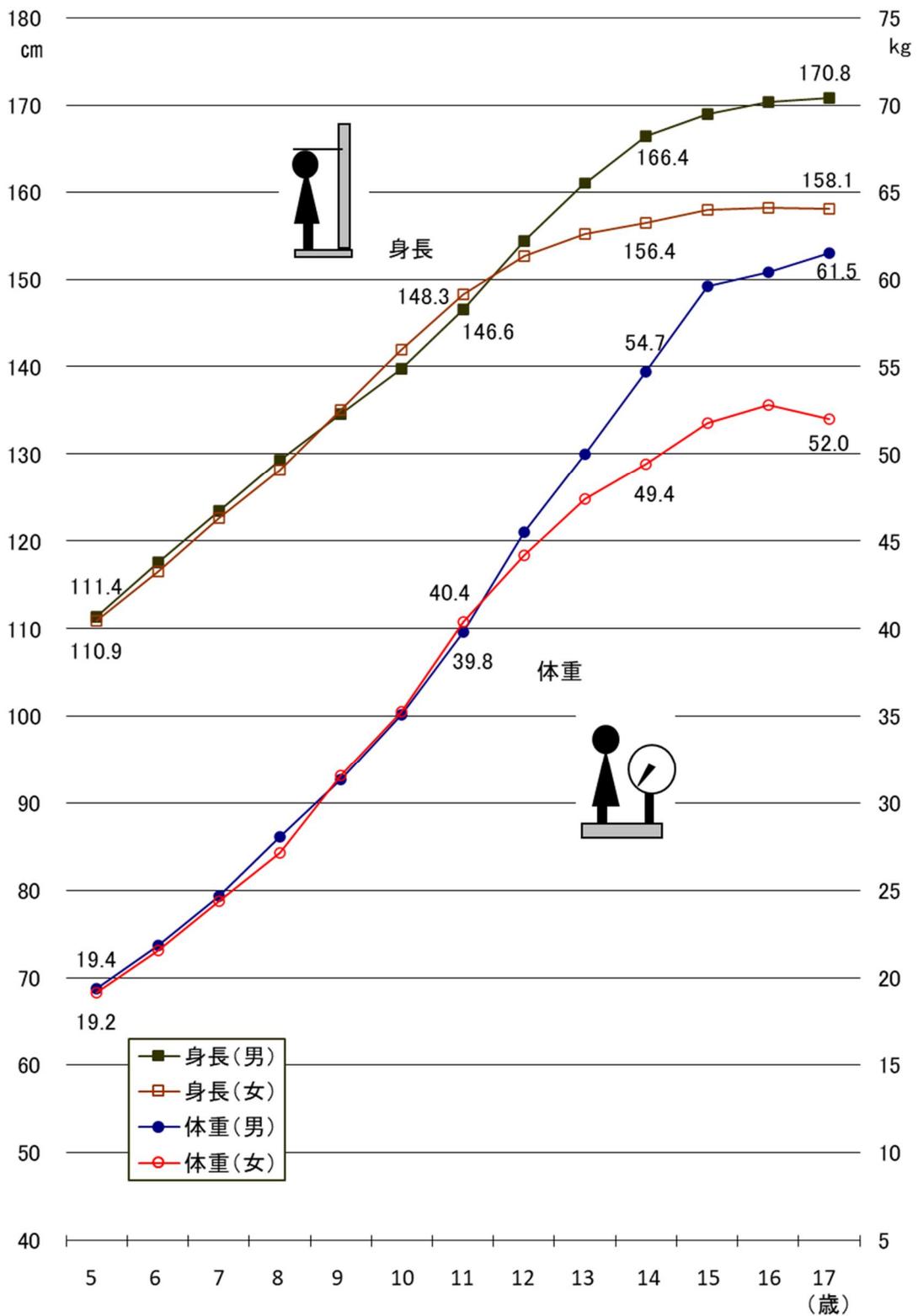
また、男女差を見ると、9～11歳では、女子が男子を上回っている。(表2、図3)

※年齢較差とは、例えば男子6歳の身長については、6歳(117.6cm)から5歳(111.4cm)を差し引いた6.2cmである。

表2 身長・体重の年齢較差・男女差(千葉県)

区分	身長(cm)						体重(kg)				
	男子①	年齢較差	女子②	年齢較差	差①-②	男子③	年齢較差	女子④	年齢較差	差③-④	
幼稚園	5歳	111.4		110.9		0.5	19.4		19.2		0.2
小学校	6	117.6	6.2	116.6	5.7	1.0	21.9	2.5	21.6	2.4	0.3
	7	123.4	5.8	122.6	6.0	0.8	24.7	2.8	24.4	2.8	0.3
	8	129.3	5.9	128.2	5.6	1.1	28.1	3.4	27.2	2.8	0.9
	9	134.6	5.3	135.1	6.9	△0.5	31.4	3.3	31.6	4.4	△0.2
	10	139.8	5.2	142.0	6.9	△2.2	35.1	3.7	35.3	3.7	△0.2
	11	146.6	6.8	148.3	6.3	△1.7	39.8	4.7	40.4	5.1	△0.6
中学校	12	154.4	7.8	152.6	4.3	1.8	45.5	5.7	44.2	3.8	1.3
	13	161.0	6.6	155.2	2.6	5.8	50.0	4.5	47.4	3.2	2.6
	14	166.4	5.4	156.4	1.2	10.0	54.7	4.7	49.4	2.0	5.3
高等学校	15	169.0	2.6	157.9	1.5	11.1	59.6	4.9	51.8	2.4	7.8
	16	170.4	1.4	158.2	0.3	12.2	60.4	0.8	52.8	1.0	7.6
	17	170.8	0.4	158.1	△0.1	12.7	61.5	1.1	52.0	△0.8	9.5

図3 身長・体重の年齢較差・男女差(令和5年度千葉県)



(注) 幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の最終学年の年齢についてのみ数値を記載した。

(3) 親の世代（30年前：平成5年度）との比較

親の世代との比較をみると、

① 身長

男子は、5～16歳で上回り、17歳では同値だった。

また、12歳で最も差が大きかった。

女子は、5、7～12及び15～17歳で上回り、6歳では同値、他の年齢では下回った。

また、11歳で最も差が大きかった。（表3）

② 体重

男子は、6～8及び10～13歳で上回り、9歳では同値、他の年齢では下回った。

また、16及び17歳で最も差が大きかった。

女子は、5～11歳で上回り、他の年齢では下回った。

また、11及び14歳で最も差が大きかった。（表3）

表3 親の世代（30年前：平成5年度）との比較（千葉県）

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			令和 5年度①	平成 5年度②	差 ①－②	令和 5年度③	平成 5年度④	差 ③－④
男	幼稚園	5歳	111.4	111.3	0.1	19.4	19.5	△ 0.1
		小学校	6	117.6	117.0	0.6	21.9	21.8
	7		123.4	122.4	1.0	24.7	24.2	0.5
	8		129.3	128.6	0.7	28.1	27.7	0.4
	9		134.6	133.9	0.7	31.4	31.4	0.0
	10		139.8	138.9	0.9	35.1	34.5	0.6
	11		146.6	144.9	1.7	39.8	38.8	1.0
	中学校	12	154.4	152.1	2.3	45.5	44.1	1.4
		13	161.0	159.5	1.5	50.0	49.1	0.9
		14	166.4	165.7	0.7	54.7	55.2	△ 0.5
	高等学校	15	169.0	168.4	0.6	59.6	61.1	△ 1.5
		16	170.4	170.0	0.4	60.4	62.0	△ 1.6
		17	170.8	170.8	0.0	61.5	63.1	△ 1.6
	女	幼稚園	5歳	110.9	110.2	0.7	19.2	19.0
小学校			6	116.6	116.6	0.0	21.6	21.5
		7	122.6	122.0	0.6	24.4	23.9	0.5
		8	128.2	127.3	0.9	27.2	26.8	0.4
		9	135.1	133.7	1.4	31.6	30.7	0.9
		10	142.0	140.2	1.8	35.3	34.5	0.8
		11	148.3	146.4	1.9	40.4	39.3	1.1
中学校		12	152.6	152.1	0.5	44.2	44.4	△ 0.2
		13	155.2	155.3	△ 0.1	47.4	48.1	△ 0.7
		14	156.4	157.0	△ 0.6	49.4	50.5	△ 1.1
高等学校		15	157.9	157.1	0.8	51.8	52.8	△ 1.0
		16	158.2	157.8	0.4	52.8	53.0	△ 0.2
		17	158.1	158.0	0.1	52.0	52.6	△ 0.6

2 健康状態

(1) 疾病・異常の被患率の状況

幼稚園では「むし歯（う歯）」の比率が最も高く、小学校、中学校及び高等学校では「裸眼視力1.0未満の者」の比率が最も高くなっている。

また、「むし歯（う歯）」「裸眼視力1.0未満の者」以外は、幼稚園では「歯列・咬合」、小学校、中学校及び高等学校では「鼻・副鼻腔疾患」の比率が高くなっている。（表4）

表4 疾病・異常の被患率の状況（千葉県）

区分(%)	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
70以上～90未満					
60～70			裸眼視力1.0未満の者 63.8	裸眼視力1.0未満の者 68.8	
50～60					
40～50					
30～40		裸眼視力1.0未満の者 37.7 むし歯(う歯) 30.2		むし歯(う歯) 31.1	
20～30			むし歯(う歯) 24.6		
10～20	むし歯(う歯) 17.9	鼻・副鼻腔疾患 14.5	鼻・副鼻腔疾患 10.1		
1～10	8～10				
	6～8		眼の疾病・異常 7.2 歯・口腔のその他の疾病・異常 7.1	歯列・咬合 6.5 眼の疾病・異常 6.1	
	4～6		耳疾患 5.7 ぜん息 4.8 その他の疾病・異常 4.8	耳疾患 5.2 歯垢の状態 4.1	
	2～4	歯列・咬合 3.7 歯・口腔のその他の疾病・異常 3.0 ぜん息 2.4 アトピー性皮膚炎 2.1	歯列・咬合 3.9 アトピー性皮膚炎 3.6 歯垢の状態 3.0	歯・口腔のその他の疾病・異常 3.9 アトピー性皮膚炎 3.5 その他の疾病・異常 3.2 歯肉の状態 3.0 ぜん息 2.9 せき柱の状態 2.4	歯列・咬合 3.8 歯垢の状態 3.6 その他の疾病・異常 3.5 眼の疾病・異常 3.0 歯肉の状態 2.5 心電図異常 2.3 耳疾患 2.0
	1～2	耳疾患 1.9 その他の疾病・異常 1.3 眼の疾病・異常 1.2 その他の皮膚疾患 1.1	歯肉の状態 1.8 心電図異常 1.8 栄養状態 1.1	心電図異常 1.9 蛋白検出の者 1.3	ぜん息 1.6 アトピー性皮膚炎 1.5 歯・口腔のその他の疾病・異常 1.4 せき柱の状態 1.1 蛋白検出の者 1.1
0.1～1	0.5～1	鼻・副鼻腔疾患 0.6 歯垢の状態 0.6 心臓の疾病・異常 0.5	心臓の疾病・異常 0.9 口腔咽喉頭疾患・異常 0.8 言語障害 0.8 蛋白検出の者 0.6 せき柱の状態 0.5	栄養状態 0.7 心臓の疾病・異常 0.7	心臓の疾病・異常 0.9
	0.1～0.5	蛋白検出の者 0.4 言語障害 0.2 栄養状態 0.1 四肢の状態 0.1	難聴 0.4 その他の皮膚疾患 0.2 結核の精密検査の対象者 0.2 腎臓疾患 0.2 四肢の状態 0.1 尿糖検出の者 0.1	腎臓疾患 0.4 四肢の状態 0.3 難聴 0.2 口腔咽喉頭疾患・異常 0.2 顎関節 0.1 その他の皮膚疾患 0.1 結核の精密検査の対象者 0.1 尿糖検出の者 0.1 言語障害 0.1	口腔咽喉頭疾患・異常 0.4 栄養状態 0.4 四肢の状態 0.4 腎臓疾患 0.4 難聴 0.3 顎関節 0.3 その他の皮膚疾患 0.2 尿糖検出の者 0.2 胸郭の状態 0.1
0.1未満	せき柱の状態 0.0	顎関節 0.0 胸郭の状態 0.0 結核 0.0	胸郭の状態 0.0	言語障害 0.0	

(注) 1 疾病・異常被患率の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満、回答校が1校以下のときは、統計数値を公表しない。

2 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常のある者等である。

3 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯等のある者である。

4 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

5 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

6 「蛋白検出の者」とは、尿検査のうち、蛋白第1次検査の結果、尿中に蛋白が検出(陽性(+)以上)又は擬陽性(±)と判定された者である。

7 「尿糖検出の者」とは、尿検査のうち、糖第1次検査の結果、尿中に糖が検出(陽性(+)以上)と判定された者である。

(2) 主な疾病・異常の被患率の推移及び全国値との比較

疾病・異常の被患率のうち主なものについて、全国値との比較をみると、

- ・「むし歯（う歯）」は、全ての学校種別で下回った。
- ・「裸眼視力 1.0 未満の者」は、中学校、高等学校で上回った。
- ・「鼻・副鼻腔疾患」は、小学校で上回った。
- ・「ぜん息」は、全ての学校種別で上回った。
- ・「心電図異常」は、小学校、中学校及び高等学校で下回った。
- ・「蛋白検出の者」は、全ての学校種別で下回った。（表 5）

表 5 主な疾病・異常の被患率の推移及び全国値との比較

(単位:%)

区分	むし歯(う歯)			裸眼視力1.0未満の者			鼻・副鼻腔疾患			
	千葉県①	全国②	差①-②	千葉県③	全国④	差③-④	千葉県⑤	全国⑥	差⑤-⑥	
幼稚園	令和元年	23.9	31.2	△ 7.3	X	26.1	…	4.0	3.2	0.8
	2年	28.3	30.3	△ 2.0	X	27.9	…	0.5	2.4	△ 1.9
	3年	20.1	26.5	△ 6.4	X	24.8	…	6.3	3.0	3.3
	4年	19.3	24.9	△ 5.6	X	25.0	…	2.6	3.0	△ 0.4
	5年	17.9	22.6	△ 4.7	X	22.9	…	0.6	3.0	△ 2.4
小学校	令和元年	38.8	44.8	△ 6.0	33.3	34.6	△ 1.3	9.9	11.8	△ 1.9
	2年	33.8	40.2	△ 6.4	36.1	37.5	△ 1.4	15.7	11.0	4.7
	3年	34.2	39.0	△ 4.8	35.4	36.9	△ 1.5	14.5	11.9	2.6
	4年	32.1	37.0	△ 4.9	37.5	37.9	△ 0.4	14.5	11.4	3.1
	5年	30.2	34.8	△ 4.6	37.7	37.8	△ 0.1	14.5	12.4	2.1
中学校	令和元年	31.8	34.0	△ 2.2	57.6	57.5	0.1	18.1	12.1	6.0
	2年	26.9	32.2	△ 5.3	51.4	58.3	△ 6.9	16.5	10.2	6.3
	3年	25.2	30.4	△ 5.2	56.6	60.7	△ 4.1	10.4	10.1	0.3
	4年	23.7	28.2	△ 4.5	65.4	61.2	4.2	19.8	10.7	9.1
	5年	24.6	28.0	△ 3.4	63.8	60.9	2.9	10.1	10.5	△ 0.4
高等学校	令和元年	39.5	43.7	△ 4.2	83.0	67.6	15.4	11.9	9.9	2.0
	2年	38.7	41.7	△ 3.0	X	63.2	…	3.4	6.9	△ 3.5
	3年	34.5	39.8	△ 5.3	X	70.8	…	X	8.8	…
	4年	31.5	38.3	△ 6.8	X	71.6	…	4.7	8.5	△ 3.8
	5年	31.1	36.4	△ 5.3	68.8	67.8	1.0	7.6	7.6	0.0

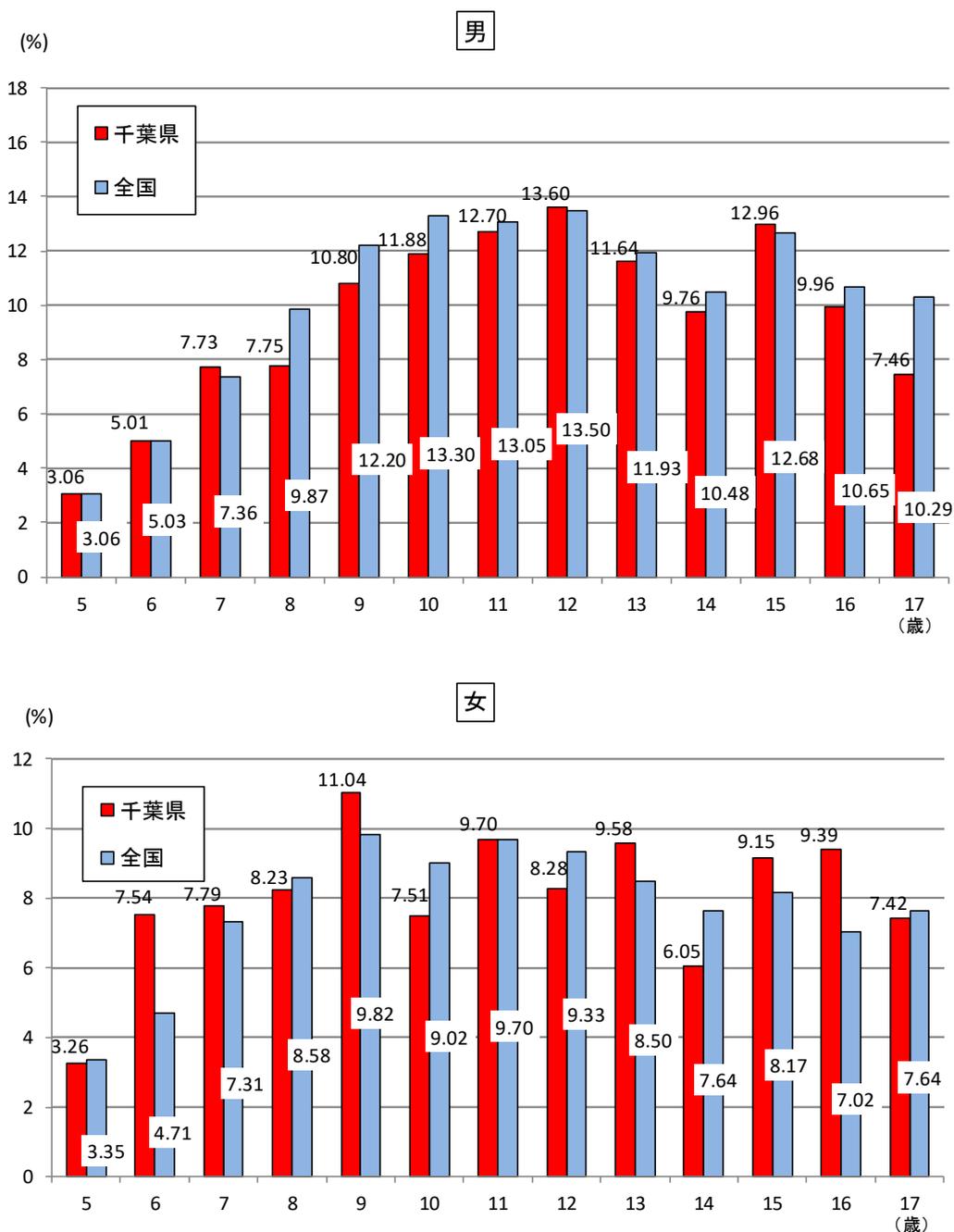
区分	ぜん息			心電図異常			蛋白検出の者			
	千葉県⑦	全国⑧	差⑦-⑧	千葉県⑨	全国⑩	差⑨-⑩	千葉県⑪	全国⑫	差⑪-⑫	
幼稚園	令和元年	3.0	1.8	1.2	…	…	…	0.2	1.0	△ 0.8
	2年	1.8	1.6	0.2	…	…	…	0.7	1.0	△ 0.3
	3年	4.4	1.5	2.9	…	…	…	0.7	0.7	0.0
	4年	1.9	1.1	0.8	…	…	…	0.6	0.9	△ 0.3
	5年	2.4	1.2	1.2	…	…	…	0.4	1.1	△ 0.7
小学校	令和元年	5.2	3.4	1.8	1.3	2.4	△ 1.1	0.7	1.0	△ 0.3
	2年	5.2	3.3	1.9	1.1	2.5	△ 1.4	0.5	0.9	△ 0.4
	3年	5.5	3.3	2.2	1.6	2.5	△ 0.9	0.8	0.9	△ 0.1
	4年	4.7	2.9	1.8	1.2	2.6	△ 1.4	0.6	1.0	△ 0.4
	5年	4.8	2.9	1.9	1.8	2.4	△ 0.6	0.6	0.8	△ 0.2
中学校	令和元年	3.8	2.6	1.2	1.5	3.3	△ 1.8	1.9	3.4	△ 1.5
	2年	4.1	2.6	1.5	2.2	3.3	△ 1.1	2.7	3.3	△ 0.6
	3年	3.1	2.3	0.8	1.4	3.1	△ 1.7	2.0	2.8	△ 0.8
	4年	3.7	2.2	1.5	1.4	3.2	△ 1.8	1.5	2.9	△ 1.4
	5年	2.9	2.0	0.9	1.9	3.2	△ 1.3	1.3	2.8	△ 1.5
高等学校	令和元年	2.0	1.8	0.2	2.1	3.3	△ 1.2	1.8	3.4	△ 1.6
	2年	2.3	1.8	0.5	2.3	3.3	△ 1.0	2.4	3.2	△ 0.8
	3年	2.4	1.7	0.7	1.5	3.2	△ 1.7	1.3	2.8	△ 1.5
	4年	2.7	1.7	1.0	2.3	3.0	△ 0.7	2.9	2.8	0.1
	5年	1.6	1.5	0.1	2.3	3.1	△ 0.8	1.1	2.5	△ 1.4

(注)心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。

3 肥満傾向児の出現率の全国値との比較

肥満傾向児の出現率について、全国値との比較をみると、男子は、7、12及び15歳で上回ったが、5歳では同値、他の年齢では下回った。女子は、6、7、9、13、15及び16歳で上回ったが、11歳では同値、他の年齢では下回った。(図4)

図4 肥満傾向児の出現率の全国値との比較



(注) 1 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

2 肥満傾向児の算出については、平成18年度から現行の方法に変更されている。